慶友会広報誌『はなやま』第26号　通算66号　2025年8月13日

はなやま　26号　もくじ

①慶友足の外科センターの取り組み
②新任医師紹介　甲斐公博先生　田村誠志先生

慶友足の外科センターの取り組み

慶友足の外科センター長：岩下考粋（いわした　こうすい）略歴

2010 年	熊本大学卒業後、熊本赤十字病院、慶應義塾大学病院、伊勢原協同病院、済生会横浜市東部病院、江戸川病院、重城病院 CARIFAS 足の外科センター　勤務
2024 年	慶友整形外科病院　足の外科センター長に就任

2024 年 4 月 1 日より赴任しました岩下と申します。慶應義塾大学スポーツ医学総合センターに所属し、その後、帝京大学および千葉の木更津市にある CARIFAS 足の外科センターという足専門病院で 7 年間、足部足関節の診療に従事してまいりました。年間 500 件ほどの手術を行っておりました。足関節靱帯損傷や三角骨障害といったスポーツ外傷や障害に対する関節鏡を用いた低侵襲手術から、外反母趾や扁平足、変形性足関節症といった変性 疾患まで、足部足関節疾患に対して幅広く診療しております。足部足関節は小さい部位ではありますが、疾患は多岐にわたります。足部足関節に関してお困りの症状がありましたら遠慮なくご相談いただければと思います。館林を中心に、群馬、日本、そして世界の医療に貢献できるよう邁進してまいります。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

○足の外科センターについて

「立つ」「歩く」「走る」などの日常生活動作は何気ない動作でありながら、足の働きが大きく寄与しています。足部や足関節に痛みや変形が生じると生活の質は大きく損なわれ、外出の機会も減ってしまいます。

当院では様々な疾患に対して、足の外科センターの専門的な視点で診療・手術・リハビリを提供しています。足の外科センターは、整形外科の中でも特に足の障害に関する専門知識や技術を持つ医師が中心となり、理学療法士、義肢装具士、放射線技師、看護師といった多職種が密に連携しており、チーム医療を実践しています。対象となる疾患は、足関節捻挫、外反母趾、扁平足、足底腱膜炎、モートン病、変形性足関節症、アキレス腱断裂、離断性骨軟骨炎、骨折など多岐にわたり、患者さんの年齢や生活背景応じた治療を行っています。

特に、当院では保存療法から手術、そして術後リハビリまで一貫してサポートできる点を大きな強みとしています。また、足部・足関節に関する幅広い疾患に対応しており、中でも特に多く行っている外科的手術が、足関節捻挫に対する「前距腓靭帯（ATFL）修復術」と、外反母趾に対する「DLMO 法（遠位中足骨骨切り術）」です。

○前距腓靭帯（ATFL）修復術

足関節捻挫は、運動中や日常生活のちょっとした動作でも起こりやすい外傷です。一見すると軽いケガに思われがちですが、靭帯の損傷が高度である場合や、捻挫を繰り返す「慢性足関節不安定症」に至ると、足首のぐらつきや不安定感が日常動作に支障をきたし、将来的に軟骨が傷んでしまうなど変形性足関節症を発症するリスクもあり、二次的な障害につながる可能性が潜んでいます。

こうした症状に対し、当センターでは ATFL 修復術を積極的に行っています。これは、損傷した前距腓靭帯を解剖学的に修復・再建する術式であり、靭帯の機能を元に戻すことで、関節の安定性を高めることができます。手術後は、段階的な筋力トレーニング、バランスエクササイズを取り入れた理学療法を行い、再発予防と早期復帰を目指します。

○ATFL 修復術の術後の流れ

術後翌日より歩行練習を始めます。入院期間は術後 1 週間ほどになります。術後 4 週間は足関節の角度制限がありますが、術後 2 週よりジョギング開始、術後 5 -6 週でスポーツ復帰を目指します。具体的なリハビリテーションは、足関節の安定性を高めるための腓骨筋群の強化や、感覚入力（プロプリオセプション）トレーニングを重視しており、特にスポーツ復帰を希望する患者には競技特性に応じたリハビリメニューを組み立てています。

○外反母趾に対する DLMO 法（遠位中足骨骨切り術）

外反母趾は、母趾（親指）が小趾（小指）側に向かって曲がり、痛みや腫れ、歩行障害を引き起こす疾患で、特に女性や高齢者に多く見られます。当センターでは、変形の程度や骨配列に応じて、DLMO 法（遠位中足骨骨切り術）を行っています。この術式は、中足骨の遠位部分を切開・矯正し、母趾のアライメントを整えることで、痛みや変形を改善する方法です。DLMO 法は、侵襲が比較的少ないため回復も早く、術後の安定性に優れ、歩行再開までの期間が短い点が特徴です。入院期間や社会復帰までの期間を気にされる患者さんにとっても、非常に有効な選択肢となっています。

○DLMO 法の術後の流れ

術後翌日より歩行練習を始めます。つま先で地面を蹴るような通常歩行は術後 7 週より許可されます。術後リハビリテーションは、母趾のアライメント維持と足部全体の機能回復を目指し、足趾の運動指導、足底筋群のストレッチやトレーニング、日常生活動作の獲得を重点的に行います。これにより、外反母趾の再発予防や手術後の良好なアライメントを維持し、日常生活や趣味活動への早期復帰を目指しています。

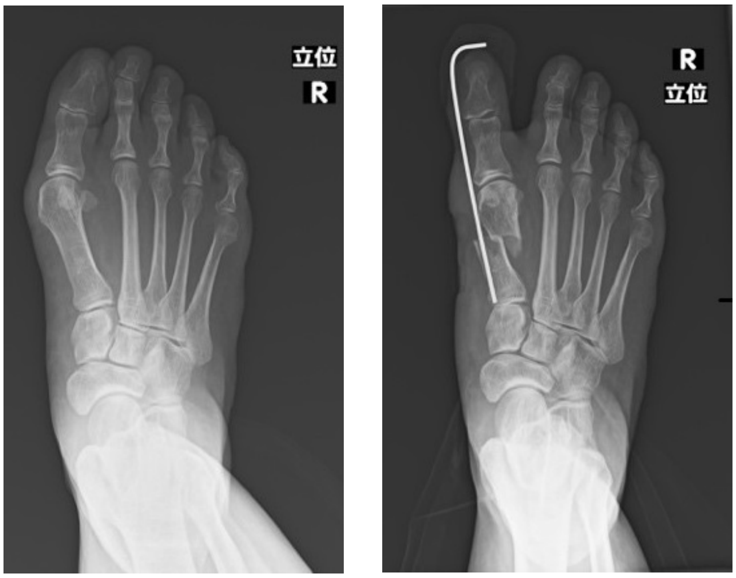


図 1　左：術前外反母趾　右：術後外反母趾

○足底腱膜炎に対する保存療法

足底腱膜炎は、踵に痛みを生じることが多く、中高年層や立ち仕事が多い方、スポーツ愛好家などに頻発する疾患です。とくに朝の起床時や長時間の歩行後に痛みが強くなることが特徴で、日常生活に大きな支障をきたすこともあります。

当センターでは、患者さんの症状や足の形状に応じて、インソール（足底板）を処方し、足底にかかる負担を軽減します。また、疼痛の強い症例に対して、拡散型体外衝撃波療法（図 2）や収束型体外衝撃波療法（図 3）を導入しており、組織の修復促進や鎮痛効果を目的とした非侵襲的な治療法を積極的に行っています。さらに、理学療法士によるストレッチ指導や足部の筋力トレーニングなどの運動療法も組み合わせ、根本的な機能改善と再発予防を目指します。症状が強い場合には、局所へのステロイド注射など薬物療法も適宜併用し、疼痛コントロールを図ります。

足は私たちの生活を支える重要な基盤であり、その機能の維持は健康寿命の延伸にも直結します。

足の外科センターでは、専門的な知見と多職種の連携をもとに、これからも地域の皆様の “歩く力” を支える診療体制を提供してまいります。

慶友足の外科センター

図 2：拡散型体外衝撃波装置

図 3：収束型体外衝撃波装置

新任医師紹介

● 甲斐　公博　（かい　きみひろ）

平成 31 年旭川医科大学卒．熊本大学病院，埼玉メディカルセンター，国立埼玉病院，さいたま市立病院を経て，令和 7 年 4 月当病院勤務

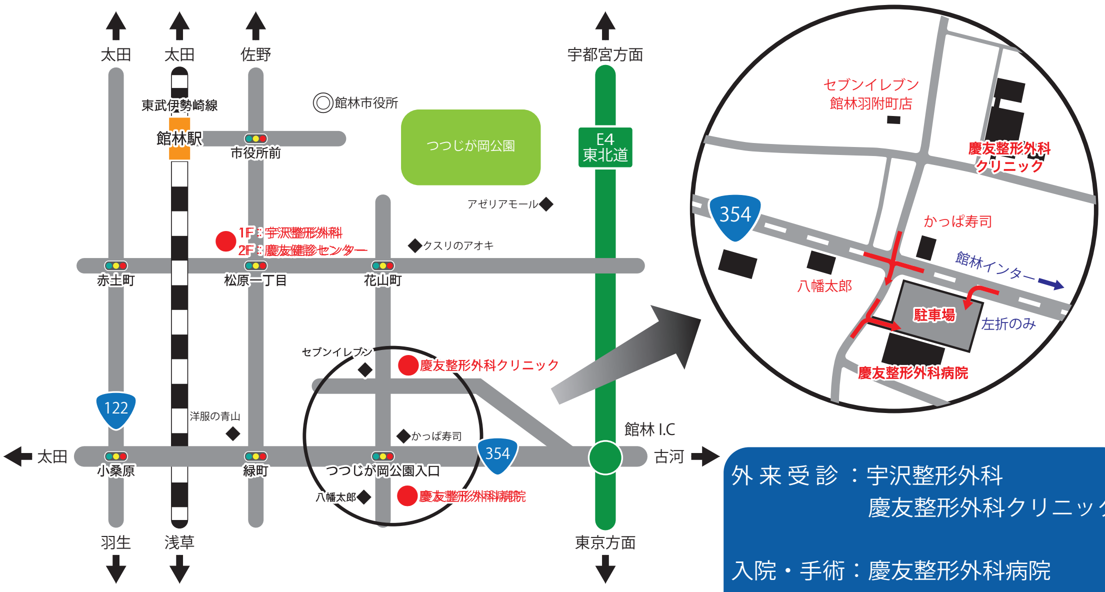
令和 7 年4 月より当院に赴任致しました。主に頸椎や腰椎等の脊椎疾患を担当致します。患者さんの意思を尊重しながら、最適な治療を提供できるように心がけております。
両毛地域の医療に貢献できるように努めてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

● 田村　誠志　（たむら　まさし）

平成 23 年自治医科大学卒．西吾妻福祉病院，群馬大学医学部附属病院麻酔科蘇生科助教，公立富岡総合病院主任医長を経て，令和 7 年 4 月当病院勤務．日本専門医機構認定麻酔科専門医．麻酔科標榜医．日本区域麻酔学会認定医．新生児蘇生法 (NCPR) インストラクター．インフェクションコントロールドクター

2025 年 4 月 1 日より入職いたしました麻酔科医の田村誠志と申します。これまで神経ブロックやペインクリニックを専門に、また総合診療にも携わってまいりました。ご縁があり、藤田病院長をはじめ麻酔科の先生方のお声がけで、当院の一員となりました。手術の安全性と快適な鎮痛は、時に両立が難しいこともありますが、神経ブロックなどの技術を活かし、できる限り患者さんのご負担を軽減できるよう努めてまいります。安心して手術を受けていただけるよう、精一杯サポートいたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

Information



慶友整形外科病院では外来受診は行いません。ご注意下さい。
外来受診される方は、慶友整形外科クリニックへお越し下さい。

外 来 受 診 ：宇沢整形外科
　　　　　　慶友整形外科クリニック

入院・手術：慶友整形外科病院

健 康 診 断 ：慶友健診センター

外来
慶友整形外科クリニック
0276-72-6000
〒374-0011
群馬県館林市
羽附町 1741

外来
宇沢整形外科
0276-74-8761
〒374-0016
群馬県館林市
松原 1-10-30

入院・手術
慶友整形外科病院
0276-49-9000
〒374-0013
群馬県館林市
赤生田町 2267

社会医療法人
慶友会
http://www.ku-kai.or.jp

健診・ドック
慶友健診センター
0276-75-7000
〒374-0016
群馬県館林市
松原 1-10-30